

令和6年度 亀山中学校 具体的行動計画 学校自己評価表Ⅰ

重点目標	【1】学力の向上を目指した授業改善と主体的に学ぶ生徒の育成	学校自己評価：B	
		〔評価〕 A：達成 B：概ね達成 C：不十分	
行動計画及び目標値	達成状況・評価結果	成果や課題、今後の方針 等	評価
<行動計画> (1)教職員の授業改善活動による「力のつく授業」の実践 <目標値> ・「授業理解」へのアンケート 教職員、保護者、生徒 80% 教職員研修への満足度アンケート 85% ・校内授業研究年間1回 ・授業相互見学の実施	・授業理解に対する自己評価 生 徒【全体90%、1年91%、2年85% 3年93%】 保護者【全体69%、1年59%、2年73%、3年74%】 教職員【全体94%】 生徒 87.3% (R3年)、88% (R4年)、88% (R5年) 保護者 64.3% (R3年)、64% (R4年)、68% (R5年) 教職員 61% (R3年)、83% (R4年)、98% (R5年) ・教職員研修への満足度 90% (1月研修アンケート) ・校内授業研究年間 現在1回 ・授業相互見学（模擬授業）の実施 2回	・「授業への理解度」の問いに対して、昨年度より評価が高い傾向を示している。また、「学力が身につけている」に対して生徒・教職員の回答は昨年度より向上しており、一定の評価ができる。 ・毎日のタブレット端末の持ち帰りも定着し、「e-ライブラリ」や各教科の課題等、家庭学習の充実に努めた。 ・今年度の取り組み内容をしっかりと見直した上で、次年度へ引き継いでいく。	B
<行動計画> (2)学校のICT化（一人一台端末の有効的な活用）と学習スタイルの共有 <目標値> ・タブレット活用の促進、「書く」活動の充実にに対する教職員アンケート 90% ・「めあて」「まとめ」「ふりかえり」を定着と「学び合い」の学習スタイルの充実にに対するアンケート 90%	・タブレット端末毎日持ち帰り ・「書く」活動の充実にに対する教職員評価 87% (1月研修アンケ) ・「めあて」「まとめ」「ふりかえり」を定着に対する教職員評価 96% (1月研修アンケ) ・「学び合い」の学習スタイルの充実にに対する教職員評価 93% (1月研修アンケ)	・毎日のタブレット端末の持ち帰りも定着し、「e-ライブラリ」や各教科の課題等、家庭学習の充実に努めた。 ・昨年からすべての教科において「めあて」「まとめ」「ふりかえり」を行うことによる学びの土台となる授業スタイルを継続できた。 ・昨年度研修した思考ツールを効果的に活用できた。 ・学び合いのために学習形態の工夫（ペアワークやグループワーク）、発問の工夫について研修を深めることができた。 ・学び合いをよりよいものにするために発問の内容やタイミング、交流の方法について等、来年度も継続して研修を深める必要がある。	B
<行動計画> (3)読書習慣の定着 <目標値> ・短学活での読書活動の充実（生徒アンケート評価90%） ・生徒一人当たりの年間読書冊数の目標値20冊 ・朝の図書館デーの継続	・朝の読書活動において、毎日1つの学級が図書館で実施 ・生徒の年間読書冊数（12月末現在） 8,998 冊 6,707冊（R3年）、7,989冊（R4年）、9,599冊（R5年） ・一人当たり年間冊数（12月末現在）15.07 冊 11.16冊（R3年）、13.68冊（R4年）、15.66冊（R5年） ・国語科、特別支援学級等で図書館を利用した学習の実施 ・図書館ADの訪問による学習支援回数もおおよそ月1回開催 ・朝読、朝学の取り組み状況生徒自己評価 【全体90%、1年90%、2年90% 3年89%】 87.3% (R3年)、93% (R4年)、93% (R5年)	・朝の図書館デーの取組を継続して行い、読書に親しむ習慣の定着に取り組んだ。 ・担当教員や学校司書、アドバイザーの指導、支援により、生徒や教職員が市のビブリオバトルに自主的に参加するなど読書活動の充実につながった。 ・学校司書を中心として図書館環境は整備されているため、日常的に図書館に訪れる生徒は多くなりつつある。 ・中庭図書館を実施し、多くの生徒が図書館を訪れ、本を手取る様子が見られた。 ・今後も望ましい読書習慣を定着させていく。	A
<行動計画> (4)学習習慣の定着 <目標値> ・「家庭学習の手引き」と「自習学習ノート」を活用（家庭学習に対するアンケート達成率 75%） ・短学活での学習活動の充実（生徒アンケート評価90%） ・毎日のタブレット持ち帰り	・アンケート「家庭で毎日勉強していますか」 【生徒65% 保護者50%】 <生徒> 65.8% (R3年)、63% (R4年)、65% (R5年) <保護者> 55.8% (R3年)、56% (R4年)、47% (R5年) ・タブレット端末持ち帰り毎日実施	・家庭での学習習慣の定着については、昨年度とほぼ同様の結果となった。ICTを利用するなど家庭での学習スタイルも新しく変わりつつあるが、学習の手引きを活用し、授業での宿題の出し方に関して見直し、指導の強化を図っていく。また、今年度はワークカレンダーの活用により、計画的、継続的な学習を意識させることができた。 ・毎日のタブレット端末の持ち帰りも定着し、「e-ライブラリ」や各教科の課題等、家庭学習の充実に努めた。	B

令和6年度 亀山中学校 具体的行動計画 学校自己評価表Ⅱ

重点目標	【2】豊かな心を持ち、命を大切にする生徒の育成	学校自己評価：B	
		〔評価〕 A：達成 B：概ね達成 C：不十分	
行動計画及び目標値	達成状況	成果や課題、今後の方針 等	評価
<行動計画> (1)「人権」「道徳」「いのち」を大切にした教育の推進 <目標値> ・人権教育推進委員会（週1回開催）、校区人権ネットワーク（年間3回開催）（人権教育への取組評価保護者・教職員80%） ・「いのちの日」の取組等による自他の命を大切にする教育の推進「いのちの日」講演会 年間1回。（人権学習への取組評価生徒90%）	・人権教育推進委員会を週時程に入れ定例化（週1回） ・各学年別に人権学習計画を検討し、委員会で系統性を検討 ・アンケート「人権学習や講演会に真剣に取り組んだか」 【生徒 95% 保護者 71% 教職員 91%】 生徒 93.5%（R3年）、95%（R4年）、97%（R5年） 保護者 66.4%（R3年）、66%（R4年）、69%（R5年） 教職員 90.9%（R3年）、89%（R4年）、93%（R5年） ・いのちの日講演会（1月）	・人権教育9か年カリキュラムに基づき、各学年の人権学習を行った。校区人権フォーラムでは、人権サークル「ヒューマンライツ」のメンバーが参加し小学生と交流し学習を深めることができた。 ・今年度は学年別人権フォーラムを行った。学年別にしたことで、学年の課題に合わせた充実した話し合いができた。 ・いのちの日講演会やフォーラム等において、生徒の前向きな学習姿勢が見られた。年間を見通して生徒の現状や課題に応じて計画的に取り組む必要がある。 ・校内の活動のほか、三中交流会、亀高フレンドリークラブ発表会、生徒会研修会などの行事、また多くの作文応募などで幅広く活躍する生徒の姿があった。またこれらの教育活動が保護者に伝わるよう情報発信していく。 ・人権学習後のアンケートやいじめアンケートの中には自分のこととして捉えることができていない生徒もみられるため、今後も教師自身がアンテナ高く、人権意識、知識を高めていく必要がある。	B
<行動計画> (2)生徒の居場所づくり・きずなづくりを意識した仲間づくり <目標値> ・QUアンケート分析（年間2回）、仲間づくりアンケート（各学期）、人権アンケート（年間1回）（生徒理解に関するアンケート90%） ・教育相談活動の充実（いじめのない学級づくりへのアンケート評価90%） ・学校風土調査の実施	アンケート ・「学校生活が楽しい」 生徒97% 93%（R3年）、94%（R4年）、96%（R5年） ・「先生に気軽に相談できる」 生徒86% 83%（R3年）、82%（R4年）、84%（R5年） ・「先生はいじめのない学級づくりにつとめている」生徒97% 93%（R3年）、94%（R4年）、96%（R5年） ・「先生は生徒のことをよく理解している」 生徒94% 92%（R3年）、93%（R4年）、92%（R5年）	・「学校生活が楽しい」「先生に気軽に相談できる」「先生はいじめのない学級づくりに努めている」「先生は生徒のことをよく理解している」どの項目においても、昨年度より上回った。しかし、「楽しい」と答えなかった生徒に目を向け、いじめを許さない仲間づくり、生徒同士の課題解決能力の育成、保護者との信頼関係の構築等に一層力を注ぎ取り組みをしていく。 ・視点生徒を設定した学級づくりレポートの研修会を実施し、取り組みにおける困り感や具体的な手立てについて交流し学んだ。また、視点生徒の捉え方や意味のあるレポートにするための書き方や視点等、研修を持ち、共通理解することができた。	B
<行動計画> (3)生き方を学ぶ教育活動の推進 <目標値> ・進路、キャリア、多文化共生、防災、性等の生き方につながる教育活動の実践（ゲストティーチャー年5回以上）	○1年 ・交通安全教室（5月） ・歯科講演会（6月） ・スマホ教室（6月） ・薬物乱用防止教室（7月） ・HONDA HEAT 夢授業（7月） ・亀山文化年事業（1月） ・環境学習講演会（11月） ○2年 ・マナー講座（6月） ・救急救命講座（11月） ○3年 ・金融授業（9月） ・主権者教育 ・中学生議会（8月） ・竹あかり（5月） ○全学年 ・いのちの授業（6月） ・交通安全教室（11月） ・歯科講演会（11月） ・PTA企画部講演会（11月） ・いのちの日講演会（1月） ・三送会（2月）	・外部から講師を招いた講演会を各学年の実状に合わせて効果的に実施することができた。 ・今年は「いのちの授業」の講演会として、全校生徒対象に助産師 林みち子さんから「いのち」の大切さや生き方について講演をいただいた。今後も生徒の生き方、考え方を深められるような講演会や学習を継続していく。 ・本校には外国にルーツを持つ生徒が多く在籍している。家庭的な背景や学力の定着の面で課題を抱える生徒も多い。自分のルーツに誇りを持って思いを発信でき、互いに文化や伝統の違いを尊重し合える学習をさらに推進していく必要がある。今年度はジャンカルロさんに講演をいただき、外国にルーツをもつ人々の持つ困難や困り感について知り、自分たちができることについて考えることができた。	A
<行動計画> (4)いじめ防止に向けた家庭との連携と校内での早期発見、早期対応と継続的な指導の徹底 <目標値> ・いじめアンケート年間3回 ・教育相談活動の充実（年間3回＋α） ・いじめへの取組に関するアンケート評価90%	・生徒指導委員会、特別支援教育推進委員会を週1回定例化 ・いじめアンケート3回実施、生活アンケート3回実施 ・教育相談期間4回実施、3学期2回予定 ・アンケート「学校生活が楽しい」生徒97% 93%（R3年）、94%（R4年）、96%（R5年） ・アンケート 「先生はいじめのない学級づくりにつとめている」生徒97% 93%（R3年）、94%（R4年）、96%（R5年）	・生徒指導委員会、特別支援教育推進委員会に取り上げられた生徒情報は担当から各学年部に伝え、職員会議でも情報の共有化を図った。 ・定期的なアンケートや教育相談・見守り・WEBでの相談窓口を設置した。 ・「学校生活が楽しい」「先生はいじめのない学級づくりに努めている」が前年度より上回っているものの、今後もいじめを許さない仲間づくり、生徒同士の課題解決能力の育成、保護者との信頼関係の構築等に一層力を注ぎ取り組む。 ・また、今年度は学校風土調査を2回実施し、いじめアンケートやQUアンケート等とは違う視点で学校全体の状況を掴み、取り組むことができた。	B

令和6年度 亀山中学校 具体的行動計画 学校自己評価表Ⅲ

重点目標	【3】生徒の自治的活動の推進と地域、保護者との連携	学校自己評価：B	
		〔評価〕 A：達成 B：概ね達成 C：不十分	
行動計画及び目標値	達成状況	成果や課題、今後の方針 等	評価
＜行動計画＞ (1) 生徒が主体となる生徒会活動・学年評議会活動・学級活動・部活動の充実 ＜目標値＞ - 生徒、保護者、教職員「生徒会活動の充実」「部活動の充実」アンケート評価90% - 生徒会、学年評議会等が主体となる学校行事の企画・運営 - 部活動ガイドラインを遵守した部活動運営	- 生徒指導委員会、特別支援教育推進委員会を週1回定例化 - アンケート 「生徒会活動、委員会活動は充実している」生徒 95% 90% (R3年)、96% (R4年)、95% (R5年) - アンケート「校内美化に取り組んでいる」生徒 96% 85% (R3年)、95% (R4年)、96% (R5年)	・体育祭や文化祭といった学校行事も内容を精選し、工夫改善しながら全校で一斉に実施することができた。来年度も生徒主体の活発な活動となるように、取り組みを継続していく。 ・清掃日を月曜日、簡易清掃日を火木曜日、清掃なし日を水金曜日とした。月曜日の清掃日が休日となることも多かったため、清掃の意識が低下した感はある。来年度は別の曜日を設定する方向で検討している。また、今年度もSSSや事務補助員に業務として廊下やトイレ清掃を依頼している。 ・美化委員会を中心に「学校環境デー」を7月に実施した。グラウンドや駐輪場等の除草作業を行う予定であったが、雨天のため環境保全に係る取組のビデオを視聴し、環境教育に取り組んだ。	A
＜行動計画＞ (2) 学校運営協議会を核とした学校・保護者・地域が一体となった教育活動を推進 ＜目標値＞ - 年間4回以上の学校運営協議会の開催と活動方針の協議及び実践 - PTAとの連携による教育活動（家庭学習、スマホ・ゲーム視聴時間等の改善活動） - 学校関係者評価の実施と改善活動（公開）	- 学校運営協議会4回実施 ①R6. 4. 30 経営方針・予算等の承認 ②R6. 7. 1 授業参観・意見交流 ③R6. 11. 5 学校の取組、生徒との懇談 ④R7. 2. 20 学校評価、次年度の経営方針	・学校の教育目標や解決すべき課題を学校、保護者、地域住民の三者で共有し、生徒が安心していきいきと活躍できる環境づくりのために、学校運営協議会を4回実施した。委員以外の教職員との懇談、生徒との懇談など行うとともに、本校の課題の1つである不登校支援について亀山市教育支援センター職員より話を聞くなど、課題解決に向けて意見交流を行うことができた。 1月には教室に入りにくい生徒対象に和菓子作りを計画、実施し、該当生徒たちにとって貴重な機会となった。 - 今後も連携をさらに推進していく。	A
＜行動計画＞ (3) 生徒の地域活動参加による社会貢献・ボランティア活動 ＜目標値＞ 地域行事、ボランティア活動への積極的参加（生徒アンケート評価70%）	- アンケート 「福祉活動、ボランティア活動に参加」生徒 63% 51% (R3年)、56% (R4年)、59% (R5年) - アンケート 「積極的に地域行事に参加」生徒 71% 保護者 49% 生徒 64% (R3年)、68% (R4年)、71% (R5年) 保護者 39% (R3年)、39% (R4年)、42% (R5年)	・今年度も赤い羽根募金街頭活動、福祉体験は貴重な機会となった。来年度も、地域行事やボランティア活動に積極的に参加できるよう、啓発し呼びかけを行いたい。 ・福祉活動、ボランティア活動、地域行事参加への意識は高い。しかし、保護者アンケート結果と生徒の回答に差がみられるため、地域、保護者の期待値はもっと高いことがうかがえる。 ・福祉委員会の活動として、ベルマークの回収やペットボトルのキャップ回収などに全校で取り組んだ。 ・生徒会本部が定期的に学校周辺の清掃活動に取り組んだ。	B
＜行動計画＞ (4) 学校による教育活動の情報発信 ＜目標値＞ - 学校だより発行数20回以上 - ホームページの随時更新 - 保護者アンケート評価85%	- アンケート 「学校の様子を知らせているか」生徒96% 保護者76% 生徒 93% (R3年)、94% (R4年)、95% (R5年) 保護者 86% (R3年)、86% (R4年)、84% (R5年)	・学校だよりは、12月末段階で発行部数31号を数え、日々の生徒の活動や様子の紹介や学力調査の結果の公表、時事を取り上げた投げかけ等、多岐にわたって校内外に発信をしている。 ・学校ホームページは、行事等の機会に学校の様子を発信した。 ・ペーパーレス化の取組とタブレット端末の持ち帰りを運動させたが、ロイノートでの通信持ち帰りでは保護者の目に触れにくい現状もあるため、メール配信でも併せて連絡を入れている。来年度については、新たな『つながる連絡』を活用することで改善が見込まれる。 ・地域や保護者に学校の様子を知ってもらうため、次年度においてもさらに積極的な更新を心がけ、情報発信に努めていく。	B

令和6年度 亀山中学校 具体的行動計画 学校自己評価表Ⅳ

重点目標	【4】個々を大切にしたい誰一人取り残さない教育の推進	学校自己評価：B	
		〔評価〕 A：達成 B：概ね達成 C：不十分	
行動計画及び目標値	達成状況	成果や課題、今後の方針 等	評価
＜行動計画＞ (1) 魅力ある学校づくり・レジリエンス教育の推進 ＜目標値＞ ・魅力ある学校づくりアンケート（学校生活の楽しさ・みんなで活動する楽しさ90%）	・アンケート「学校生活が楽しい」生徒97% 93%（R3年）、94%（R4年）、96%（R5年）	・SNSや生活面での生徒指導課題が依然として顕在化している。不登校気味の生徒や家庭への支援を行いつつ「魅力ある学校づくり」に一層取り組む必要がある。特別支援C0や不登校支援C0、生徒指導主事を中心に外部専門機関との連携をさらに密にし、情報の共有化と対応の検討をチーム学校で取り組む。 ・今後も教職員の人権意識向上を図り、小さな変化、差別やいじめを見逃さない学校風土の醸成に努める。	B
＜行動計画＞ (2) 生徒支援体制の充実 ＜目標値＞ ・生徒指導委員会、特別支援委員会の週1回開催による情報共有と支援体制の確立	・特別支援C0を核とした校内体制の確立 ・特別支援教育推進委員会を週時程に入れ、定例化（週1回） ・学年主任を学年支援担当と兼務させ、担任・生徒指導担当・生徒支援担当でスクラムを組んだ体制構築 ・週時程内の生徒指導委員会、特別支援教育推進委員会を週1回定例化	・定例の会議を持つことで、個々の課題や学年、クラスの課題を共有し、事案・事象についての対応を相談・協議することができた。また、事案発生時には教員内で役割分担をし、スピーディーに状況確認と指導方針や支援内容の確認ができたことで、早期発見、早期解決につながった。	B
＜行動計画＞ (3) 不登校・別室登校生徒へのきめ細やかな対応 ＜目標値＞ ・新規不登校数の削減（年間10人以下） ・オンライン授業等による不登校生徒の学習支援と新たな居場所づくり ・別室登校生徒の学習支援・適応指導教室、子ども支援室等との連携（つながりを持たない家庭ゼロ）	・不登校支援C0を核とした校内体制の確立 ・学年主任を学年支援担当と兼務させ、担任・生徒指導担当・生徒支援担当でスクラムを組んだ体制構築 ・週時程内の生徒指導委員会、特別支援教育推進委員会を週1回定例化 ・長期欠席者数（30日以上） 1年生 12名、2年生 22名、3年生 21名 ・新規不登校生徒数 16名 ・校内教育支援センターの延べ利用回数（12月末現在） 1年生 222回、 2年生 150回、 3年生 710回	・不登校支援C0を核として、校内教育支援センターの運営や個々のケースに合わせた不登校支援を進めることができている。 ・不登校支援C0や特支C0は、日ごろから関係機関等との連絡を行い、学校だけではなくサポート体制をつくり上げている。 ・ガイダンスルームとカウンセリングルームを効果的に使い分けることで、それぞれの生徒の居場所ができていく。 ・校内教育支援センターの利用については、状況によっては急な利用や一時利用の生徒もあり、いつ、だれが利用しているか等の把握がしづらい現状もある。C0や指導員との報連相を徹底していく。	B
＜行動計画＞ (4) 教育と福祉の連携、家庭支援のための小中連携の促進 ＜目標値＞ ・「つながるシート」を活用した子ども支援グループ、地域福祉課、社会福祉協議会等との連携（随時） ・子どもの育ちの連続性を意識した学校間連携（小中間・中高間）キャリアパスポートの活用 小中連絡会の開催（年2回）、児童生徒情報交換会（小中間1回、中高間1回）	・特別支援教育C0を核とした校内体制の確立 ・学年主任を学年支援担当と兼務させ、担任・生徒指導担当・生徒支援担当でスクラムを組んだ体制構築 ・週時程内の生徒指導委員会、特別支援教育推進委員会を週1回定例化	・経済的に困難な家庭の生徒を早期の段階で福祉制度につなぐことができるよう、生徒・保護者の生活状況を福祉機関と共有し、就学支援や生活困窮者自立支援法に基づく学習支援の活用など、福祉関係機関と連携した支援を行った。	B

令和6年度 亀山中学校 具体的行動計画 学校自己評価表V

重点目標	【5】チーム亀中の実践（教職員のための職場環境整備と学校経営への参画）	学校自己評価：B		
〔評価〕 A：達成 B：概ね達成 C：不十分				
行動計画及び目標値		達成状況	成果や課題、今後の方針 等	評価
＜行動計画＞ (1)働きがいがあり、健康で明るい職場づくり		・勤務における満足度 60% 15% (R3年)、54% (R4年)、78% (R5年) ・校内研修満足度 90% 75% (R3年)、100% (R4年)、97% (R5年) ・健康診断の事後対応の徹底 校長による面談・指導 100%	・今年度は勤務における満足度が低下した。要因の一つとして、中間テストを廃止し、単元テストの定期的な実施を推進したことによる諸業務の増加、休暇取得の低下が挙げられた。教職員が心身共に健康に過ごし、やりがいをもって働ける環境づくりにつとめていく。 ・来年度の定期テストの実施方法については、生徒・教職員からの意見を集約し、見直しを図っていく。	B
＜目標値＞ ・教職員満足度調査75% ・健康診断の事後対応の徹底（要検査・治療等の確実な実施） ・ストレスチェックによる総合健康リスク及び量・コントロールの項目全国平均以下				
＜行動計画＞ (2)働き方改革と総勤務時間の縮減		・部活動休養日の達成率 100% ・定時退校日達成率 98% ・月80h以上の職員（12月末現在）0人 0人（R4年）、0人（R5年） ・月45h以上の職員（12月末現在）44人 人（R4年）、16人（R5年） ・時間外労働月平均時間 ・衛生推進委員会（12月末現在） 23回	・働き方改革を推進して総勤務時間縮減することを目指し、人員の確保・分掌の新設・業務の整理・行事の見直し等をさらに推進した。 ・毎週水曜日の定時退校日に加え、市内統一で設定されている定時退校日も突発的な生徒指導にかかる家庭訪問等でやむを得ない場合を除き、おおむね達成することができた。 ・時間外勤務が80hを超える状況はなく、確実に改善が図られている。今後も個々の勤務状況の把握にとどまることなく、校務改善、働き方改革及び業務の精選に取り組んでいく。 ・教職員の学校評価アンケートでは総勤務時間の縮減、勤務における満足度ともに低下が見られるため、その具体的な要因について改善を図れるよう努めていく。	B
＜目標値＞ ・部活動休養日の達成率100% ・定時退校日の達成率80% ・時間外勤務時間80時間以上の職員数0人 ・時間外勤務時間45時間以上の職員数のべ0人以下 ・時間外労働月平均時間30時間以下（三重県平均）				
＜行動計画＞ (3)教職員研修の充実と同僚性の向上		・校内研修満足度 90% 97% (R5年) 100% (R4年) 75% (R3年) (1月研修アンケート)	・校内研修では学校の組織力を高めること、指導力向上をねらいとして、年代や教科、経験年数の異なる小グループを設定し、交流の場を多く設定した。教職員がお互いの授業を参観したり、テーマに沿った話し合いを重ねることで自身の課題に気づいたり、課題解決についての手立てについて考えることができた。 ・研修を通して、目指す子どもの姿、学び合いの姿についての共通理解が十分でなく、本校の研修として、具体的に何をしてどんな成果があったのか見えにくく、検証することが難しかった。	B
＜目標値＞ ・校内研修への満足度90% ・OJTへの満足度80%				
＜行動計画＞ (4)教職員一人ひとりの学校経営への参画		・A 4用紙購入枚数削減率 R 1 比較 51.3% ・コンプライアンス研修実施	・ライフ・ワークバランスを意識し、定時退校日や長期休業中の学校閉校日の設定、学年や分掌に係る会議を時間割内に設定するなど放課後の時間を確保するなど業務改善に取り組んだ。 ・事務職員を中心に、限られた予算を計画的かつ有用に執行できた。 ・服務規律の確保について、県や市からの通知等を活用し、意識向上に努め、職員の交通事故については今年度は1件にとどまっている。（1件は当方に過失なし）	A
＜目標値＞ ・ワークライフバランスのための業務改善の推進 ・計画性のある適切な予算執行 ・教育公務員としてのコンプライアンスの徹底				

＜学校関係者評価（学校関係者評価委員会：学校運営協議会）＞

学校関係者評価委員会である第4回学校運営協議会で学校自己評価を提示して、学校関係者評価を行った。学校自己評価については概ね適正な評価であると承認を得た。「令和6年度亀山中学校具体的行動計画・学校自己評価表」には次年度の課題や改善策を加えたが、その改善策についても概ね適正であると承認を得ることができた。また、次年度の学校教育ビジョンについても検討をいただき、2月の段階ではまだ仮承認ではあるが、4月の第1回学校運営協議会までは提案の学校教育ビジョンで学校運営を行っていくことに了解を得た。

- ・学力向上は学校のテーマであり、日常的学び、自発的な学びを作ることが課題となっている。令和6年度は定期テストの廃止や単元テストの導入に取り組んできたが、そこから見られた改善点を7年度に向けてブラッシュアップさせていきたい。委員からはころころと対応を変えることは生徒にも戸惑いを生まないかとの指摘があったが、生徒アンケート等からも改善への要望が多いことなどを明示して理解を得た。
- ・委員より「学校生活が楽しい」97%は驚くべき数字である。と言っていた。ICT機器の活用が進んでいることも評価を受ける一方で教職員は生徒の「書く力」の衰退を懸念していることを伝えると、委員の大学教授から大学生のレポート等にも課題が見えており、中学校段階での指導についてもご意見をいただくことができた。
- ・不登校生徒の支援について一定の評価を得るとともに、今後のさらなる充実を望む声があったが、学校としても同じ思いで取り組んでいくと回答した。
- ・働き方改革、予算執行状況及び経費削減の努力の様子についても評価をいただいた。その中で、部活動の地域移行など今後の情勢に合わせて対応策、改善策を講じることができるようにとの指摘があった。